

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19  
 発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺  
 TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796  
 発行人 山崎 哲  
 編集長 仲井 真裕  
 印刷 大進ラベル印刷(株) 03-3787-3621



令和5年  
4月号

大悲に生きる人とあう  
願いに生きる人となる



東京ドーム 文京区

## 西徳寺の予定 4月

5日(水) 午後7時半  
8日(土) 午後5時半

燈虹塾セミナー  
同行会総会

法話: 蓮井 邦宗

13日(木) 午後2時  
15日(土) 午後2時  
19日(水) 午後1時半  
23日(日) 午後2時半  
30日(日) 午後2時半

評議員会役員会  
定例間法会  
婦人会40周年記念総会・間法会  
評議員会総会  
中央ブロック会総会・間法会  
場所: 西徳寺



## 5月

7日(日) 正午  
13日(土) 午後5時半

燈虹塾セミナー  
同行会『観衆偈』に聞く

法話: 仲井 真裕

14日(日) 午後2時半  
17日(水) 午後1時半  
20日(土) 午後2時  
21日(日) 午後2時半  
27日(土)・28日(日)

城南ブロック会総会・間法会  
婦人会間法会  
定例間法会  
城西ブロック会総会・間法会  
本山慶讃法会団体参拝旅行

※コロナ禍でありますので、予定は変更することがあります。  
詳しくは寺務所までお問合せください。

## 顧問の一言

### 蠟燭の光

本堂の仏具に真鍮製の燭立があります。鶴と亀を型どり組み合わせて口ウソクに灯りを点す仏具です。佛光寺派の特徴であります。長足の鶴と短足の亀を、人間の長所と短所に喩えられています。自惚れと卑下にとらわれて生きる私に、そこを超える仏の智慧として、蠟燭の光で表し、共に光をかざして手を合わせてきたのです。





## 4月の山門の言葉

空は青く 太陽は眩しい  
それは誰にだって同じ事

(The sky is blue The sun is shines It's the same for everyone)

HI-STANDARD

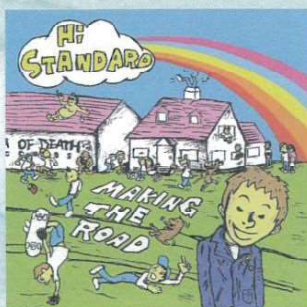
今年の二月、初めて本山佛光寺でのお茶所布教(晨朝後の法話)のご縁をいただいた。その十日間は出遇いの連続であった。まずは毎朝寒い中、拙い話を聞きに来てくださる御同行の皆様。施設に入居し五年ぶりの再会となった、今年で百歳になる祖母。また亡くなつて二十年が経つ、高校時代の友人の墓参りにも行くことができた。・・・そして、私が青春時代に聞き続けたHI-STANDARD(略してハイスタ)のドラマ、恒岡章が亡くなったというニュースが届いた。高校一年の時、部屋で音楽とラジオばかりを聞いていた私が、たまたま音楽番組で出会ったハイスタ。歌詞は全て英語、激しくもメロディアスなその音楽に惹かれ、すぐにCDを買ひ、毎日ずっと聞いていた。そのすぐ後に解散をしてしまったが、東日本大震災を機に再活動し、いつかライブに行ってみたいと思っていた。そのメンバーが亡くなり、自分の青春時代にポツカリ穴が開いたような気分になる。

仏教では、諸行無常の生老病死をいのちと説く。形あるものは移り変わり、最期は必ず終わりをむかえる。誰もが知っている当たり前であろう。しかし、その道理を理解できたとしても、「ああ、そうですか」と、簡単に納得できるものではない。

思いに執着し、理想を求める。それが宗教だと思われているが、そうではない。そこに「理想と現実」という根本的な矛盾があるのだ。その矛盾を課題とするのが仏教なのである。

先立った人を縁として開かれる儀式は、合掌礼拝から始まる。手を合わせる形で知らされてくるのは、私がこのいのちを理解できるといふ勘違い、慢心なのだ。分かっているつもりであったが、私のいのちは私の思いから始まってはいない。青い空、眩しい太陽の下に、あるがままをいだけない私の姿があった。

(仲井真裕記)



HI-STANDARD「MAKING THE ROAD」

## ランドマーク 東京ドーム(文京区)

1988年(昭和63年)3月18日に日本初の屋根付き球場として開場した東京ドーム。施設の老朽化により1987年シーズンをもって閉鎖された、後楽園球場の代替球場として後楽園競輪場の跡地に建てられました。当時の愛称は「BIG EGG(ビッグエッグ)」でしたが、2000年時点でこの呼称は公式に廃止されました。屋根は空気膜構造と呼ばれるもので、外部よりも気圧を上げて膨らませています。

読売ジャイアンツの本拠地球場として有名ですが、野球以外にも、格闘技・コンサートや展示会等も行われています。先月開催されたWBCでは、準々決勝まで東京ドームで熱戦が繰り広げられました。

また21番ゲート右側に野球殿堂博物館が併設されてます。

よく東京ドーム〇個分と表現されますが、東京ドームの面積は46,755平方メートルです。



WBCボール型オブジェ



# うばだいしゃ ～共悩共歩～ テーマ「時代」

優婆提舎(うばだいしゃ)論議の意。  
經説等について仏や仏弟子が論議して意味を明らかにしたもの。  
(例:浄土論=無量寿經優婆提舎願生偈)

今回は、西徳寺門信徒であり、婦人会会員でもある横井カーリンさんにお話を伺いました。カーリンさんはドイツ出身で、日本に来て53年、日本に来たきっかけやご主人(令和2年逝去)との出会い等、素敵なお話を聞かせていただきます。

## 【日本に来たきっかけ】

ドイツじゃない遠い所で働きたかった。ドイツで働いていた時に、たまたま日本人に会う機会があつて、その人に日本で働かないかと誘われた。よく「怖くなかつたとか、不安じゃなかつたか」と聞かれるけど、当時日本のことは何も知らなかつたから、別に恐怖も迷いも何もなかつたわ。多分中国と間違えてたと思う(笑)。カルチャーショックもなかつたね、みんな親切だつたし。日本に来た当初から幸せだつたね。

戦後約25年で、未だに戦争の辛い思い出が残っていたけど、日本とドイツは同盟国だつたので差別もなかつたね。タクシーの運転手がドイツの歌を歌ってくれたこともあつたわ(笑)。

## 【ご主人との出会い】

日本へは列車で行く予定だつたんだけど、旅行会社がポーランドのビザを取得するのを忘れていた。ビザがなかつたので何もない駅にいきなり降ろされて、ベルリンに帰されたの。当時ソビエトは厳しくて、その日にモスクワに行かないとダメだつたので、慌てて飛行機で向かつたわ。その空港で私の荷物を運ぶ手伝いをしてくれたドイツ人男性がいた。その男性はオーストリアでスキーをしていて日本人に出会つて、その日本人に、「日本に来ないか」と誘われたから、会いに行くんだと話した。その男性とはモスクワで別れて、私はシベリア鉄道で日本に来た。

日本に来て、同僚の日本人女性と江ノ島に遊びに行つた。そこで偶然再会したのが、荷物を運んでくれたドイツ人だつたの。そして葉山に住んでいる日本人の友達がいるから、一緒に遊ぼうと約束して、出会つたのが主人

だつた。

## 【今思うこと】

日本にはせっかく伝統的な文化があるのに、それを大事にしない。外国の真似ばかりしている。それじゃ外国から人が来なくなるんじゃないかなと思う。オリジナリティーを大切にしてほしい。

私は西徳寺が大好きね。西徳寺も子供たちのために何かやつてもいいんじゃないかなと思う。せっかく境内があるんだし。婦人会に参加するようになったのは、主人のおかげなの。自分が病気になるって、私にもっと西徳寺との繋がりを持つておいたほうがいいと思つたんだと思う。

(聞き手・蓮井 邦宗)



カーリンさん(右)と聞き手(左)





## 第三回 帰命法会 ～関東大震災百回忌を機縁として～

3月11日(土)「第三回帰命法会」を西徳寺にて勤修致しました。今回も多くの参詣者と共にお勤めし、その後、真宗大谷派僧侶・大島義男師から法話を頂戴しました。

「人と生まれた悲しみを分らない者は、人と生まれたよろこびも分らない」と、金子大榮(大谷派僧侶)の言葉を紹介され、「人と生まれた悲しみを学んでいくのが宗教であり、その裏返しによるこびがある」と教えていただきました。

関東大震災・阪神淡路大震災・東日本大震災で先立たれた方々を尋ねることが、人と生まれた悲しみに触れると同時に、人と生まれたよろこびも感じ取っていくということであれば、震災後にそれぞれ復興された「東京鹿踊」・「えびすかき」の奉納によって、人の悲しみよろこびを表現されているのかもしれない。

今回は山内明美様・吉福羽矢太郎様による創作神楽「帰命舞」、阪神淡路大震災後に西宮で復興された、えびす座「えびすかき」、岩手県一関市・行山流舞川鹿子躍の流れをくむ「東京鹿踊」による芸能奉納が行われ、多くの方にご覧頂けたことは本当に嬉しく思います。

様々な方のご支援・ご協力のもと三回に亘る「帰命法会」が無事に勤まりましたこと、改めて厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

副住職 大橋伊知郎



大島義男師





## 芸能奉納

### 「帰命舞」



### 「えびすかき」



### 「東京鹿踊」



### 出演

「帰命舞」 山内明美様・吉福羽矢太郎様

「えびすかき」 えびす座・武地秀実様・松田恵司様

「東京鹿踊」 代表 小岩秀太郎様



## 春季永代経法要

3月22日(水)、暖かな春の日差しのもと、春の永代経法要をお勤めいたしました。

数年はコロナ禍の影響で変則的な形で勤めてまいりましたが、今年は実に4年ぶりに、通常通りの差向布教として、新潟県 法圓寺より梨本哲哉布教使においでいただき、ご法話を頂戴いたしました。

御添書そえしょに記された御門主のお言葉を元に、「自分の思い通りにしたい心、主張することしか考えていない私たちに、「共に是れ凡夫にだひと」であると教えられるのが聖徳太子。お互いに間違いだらけの凡夫に帰り、共に仏様の方を向いて歩いて歩んでいくことが、先立って念仏申されてきた人びとより勧められているのです」と教えていただきました。

法話の後には、西徳寺混声合唱団エコーの演奏会もあり、WBC 決勝戦と日が重なったにも関わらず、多くの方にお参りいただきました。



梨本哲哉師



混声合唱団エコー

## 新職員紹介

この4月より北海道(札幌 大光寺様)の深澤見弥君ふかざわけんや(22歳)が入寺することとなりました。見弥君のお父様は30年ほど前まで西徳寺で法務員としてご活躍された深澤(旧姓時平)正見様ときひらまさみです。

美術大学で油絵を学び、卒業後は「西徳寺で勉強し、いずれは自坊を継ぎたい」という強い意志のもと、華香所に勤めてもらいます。

美術専攻のためか、感性には興味深いものを感じます。大いにその能力を生かしながら学んでくれることを願います。

皆様、どうぞ「ケンヤ!」とお声がけいただき、お育て下さい。

西徳寺住職 山崎 哲

### 西徳寺入寺への抱負

この度、父が在籍していた西徳寺に入寺させていただきました!

以前、華香所のアルバイトでお世話になったとき、ご門徒の方々との交流を経験し、様々な方々と関われるお仕事なのだ実感いたしました。

先輩達にもしててもらいながら頑張らせて頂きます。

宜しく願い致します。

深澤 見弥



深澤見弥



## 第4回東京散歩会 ◆目的地 池袋(豊島区)

2月23日(木)、天皇誕生日に散歩会を開催しました。

蓮井君の長男(4歳)と私の次男(小1)も参加し、朝8時に西徳寺を出発。

日暮里から谷中銀座を抜け、六義園脇を通過し、巣鴨のとげ抜き地藏へ。

コロナが収まりつつある休日、多くの人で賑わっていました。久しぶりに食べ歩きをしつつ、お昼に池袋のサンシャインに到着しました。皆で昼食をとり解散。

歩いてみて、意外と池袋は近いと感じ、歩くことで違う景色を見ることができました。

今回は出発時間が早く、お店が開いてなかったため、次回はもう少し時間を遅らせて出発します!

参加希望の方は西徳寺までご連絡ください。

(山崎 哲 記)



## 仏具磨き

3月7日(火)、お天気に恵まれ、約3年ぶりに有志の方にお手伝いをいただき、仏具磨きをしました。少し動けば汗ばむ陽気の中で、一生懸命お磨きをしていただき、本堂、会館の仏具が綺麗になりました。清々しい心持ちでお彼岸を迎えられることができます。本当にありがたいことです。お手伝いいただきました皆様、ありがとうございました。

(蓮井 邦宗 記)



## 燈虹塾ハイブリッドセミナー

江戸文化を学ぶ当塾、今回は「どうなの徳川? ~お墓から紐解く將軍家の人々~」と題し、当塾理事を務めます浮世写真家・喜千也氏よりお話を伺いました。

とにかくも驚かされたのは豪華絢爛なお墓の数々!お墓というよりも、もう立派な宮殿です。どんな形であれ、お墓を通してその方の生涯を問う姿勢に、感慨深い気持ちになりました。

次回は4月5日に、当塾理事の望月太左衛門氏より、「花」をテーマに実演を交えたセミナーを開催します。どなたでもご参加できますので、ぜひお越しください。(事務局 高橋)



知らなかった  
教わっていない  
忘れられた  
江戸文化  
セミナーの様子



浮世写真家・喜千也氏





## 坊さんのツブヤッター



### @テッシン



昨年11月、私の一つ上で西徳寺先輩の有馬賢照さんが往生された。  
3年前、有馬さんのご自坊がある長崎雲仙に布教のため伺い、  
夜遅くまでサシで呑む。今だから言える暴露話にお互い笑う。  
有馬さん：「お前とこんなに語り合ったの初めてだな。また来いよ!」(長崎弁)  
テッシン：「ちょっと遠すぎ!(笑)」  
有馬さん：「確かに!!(笑)」  
ご本人葬儀での再会……「そりゃないよ……」

#夢にも思わない #これから #天津甘栗 #アリスト #デンジャーハンバーグ

## えこお志お礼



新潟県 梵行寺 様  
北海道 大光寺 様  
品川区 瀧 陽子 様  
品川区 木原 麗子 様

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。  
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

## 内愚外賢

～賢者の信を聞いて、愚禿が心を顕す～

先日、身寄りのない方の葬儀式を、遺言にそって勤めました。施主を勤められたのは後見人の弁護士さん。お参りになる方はいらっしゃらないだろうと思っていましたが、故人が入居されていた施設の職員さんが何人か参列され、皆様と一緒に手を合わせる事ができました。

葬儀式の後、弁護士さんが「葬儀式を勤められて本当に良かった」と仰っていました。実は故人は施設の人気者で、皆さんが別れを悲しんでおられたそうです。

抽象的な表現ですが、人は生まれた時に1が与えられます。1は0になることはありません。ところが人間社会では1を100にしようと努力し、他人と比較をします。人間の営み、歴史の中から与えられたこの1。そこに立ち帰らせてもらえるのが、大切な仏事、儀式だといわれています。お参りになる方の多少は関係ありませんが、お参りになりたい方を拒む必要はありません。

新型コロナウイルスが終息の兆しを見せる中、今一度、手を合わせ、頭を下げる、合掌礼拝から始まる儀式の大切さを感じさせてもらいました。  
(編集長 仲井 真裕 記)

えこおに対するご意見・ご感想、お待ちしております。

✉ [saitokuji@ce.wakwak.com](mailto:saitokuji@ce.wakwak.com)

🌐 <http://saitokuji.tobihiro.jp/>



ホームページ

ゆうちょ銀行お振り込み口座  
00120-0-80670 名義 西徳寺



Facebook